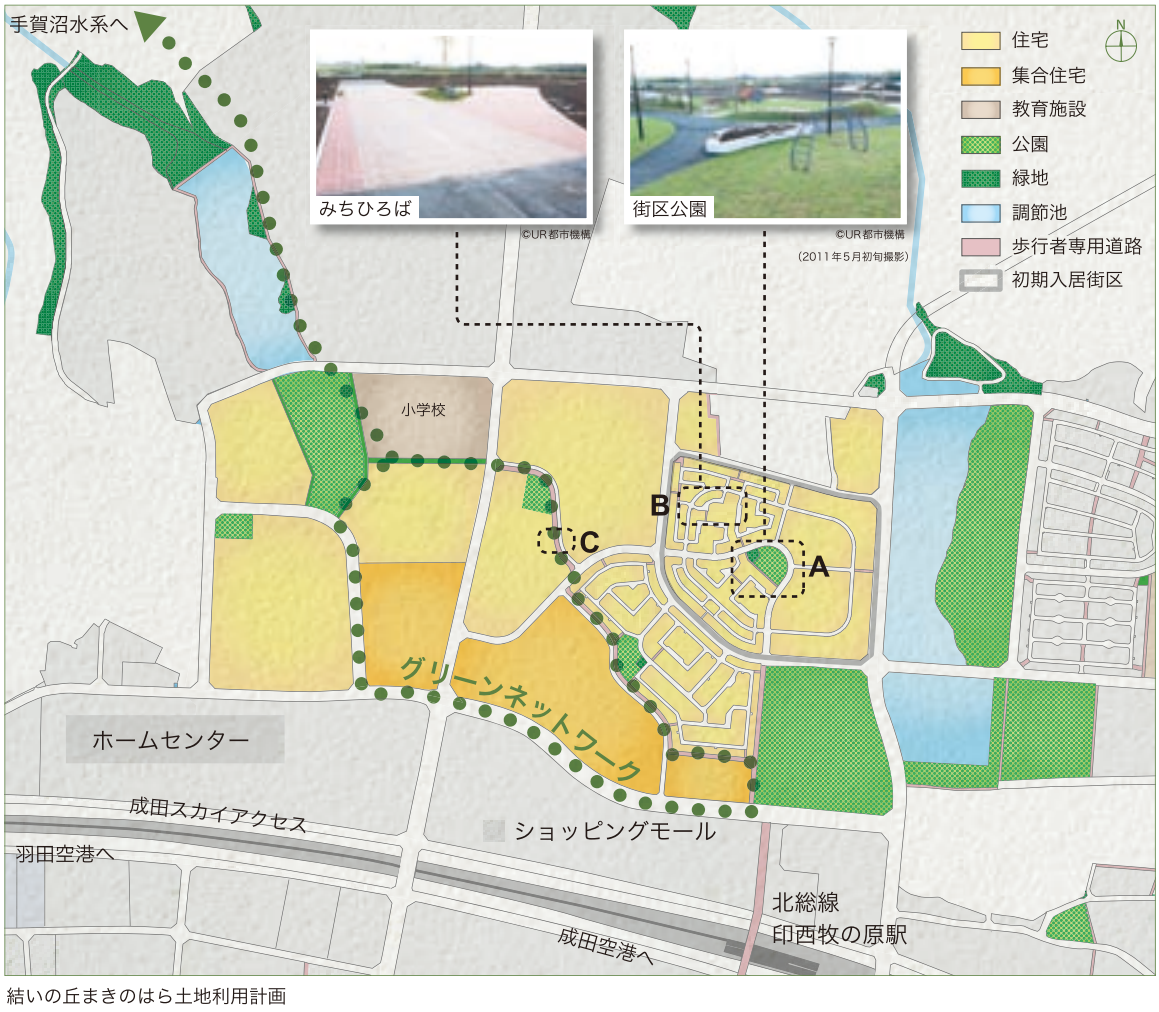
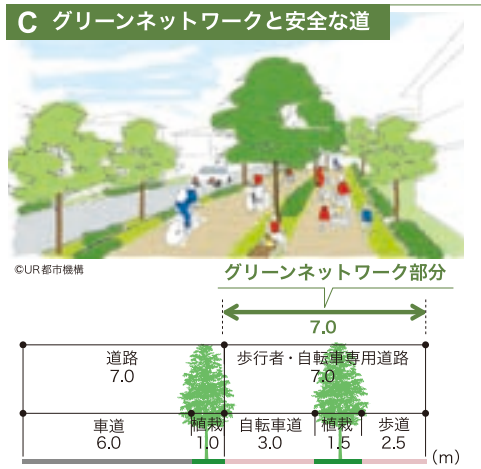
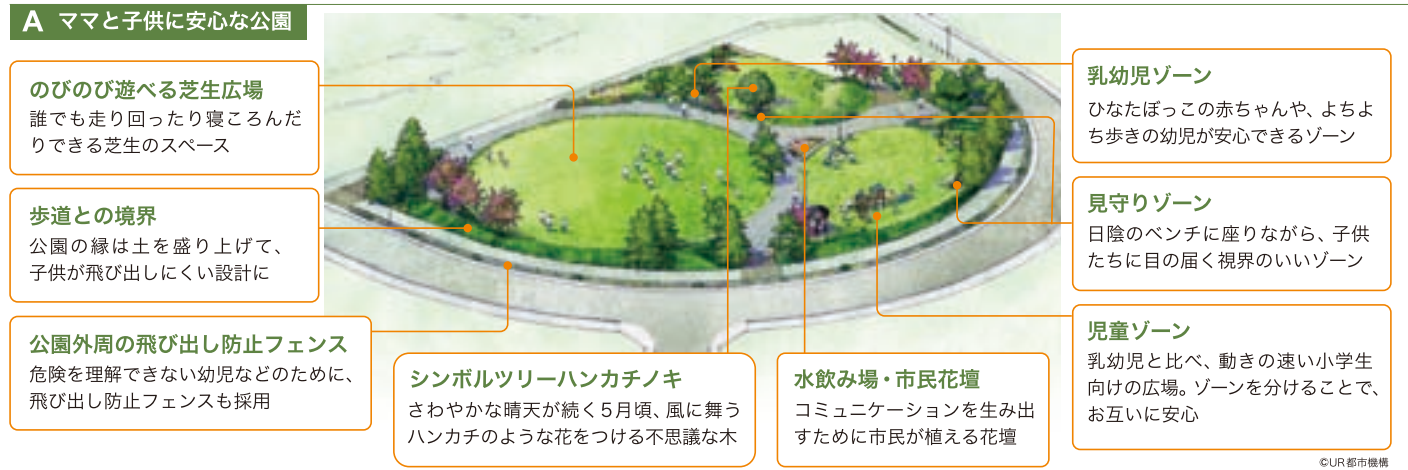




千葉ニュータウン結いの丘まきのほらでは、2011年秋に第一期のまちびらぎが行われます。ここでは、コンセプトである「地球にやさしい」「子供にやさしい」街づくりのコンセプトがどのように具体化されているかをご紹介します。

安全・安心な街のデザイン

子供にとって安全で、安心して子育てできる街とは、住む人全てに安全・安心な街となります。UR都市機構様は0.3歳のお子様を持つ「たまひよ」の読者ママ600人にアンケートを行い、その結果を道路や公園の設計に生かされています。例えば公園では、初期入居街区の中央に街区公園を設け、小さい子供と小学生などが遊べるエリアを分けています。おむつ換えや着替えができるように幅広のベンチを設置したり、そこから遊んでいる子供が見渡せるように設計。また、公園から外周道路に子供が飛び出さないように周辺部を高くし、植栽帯と柵が設けられました。

街区の道路も一般車両が通るシンボル道路、街区関係者のみが通る集散道路、

コミュニティのためのループ道路というように分け、通過車両から子供の生活環境を遠ざけるように計画。幅6mのループ道路では子供が安心して歩け、屋外で遊んでいる子供が自宅から見える「みちひろば」がつくられています。

さらに、ニュータウンで課題となるのが、多様な地域から人が移り住むことで地域の一体感を形成するのが困難な点。このため、「みちひろば」を子供から大人までが顔見知りとなるような共用スペースとして活用し、街全体を住民が守り育てていくきっかけづくりとなるように企画されています。

みどりのみち

「グリーンネットワーク」

結いの丘まきのほらでは、街の骨格となる道路とは別に、学校や公園、商業施設、駅など、地域の核を結ぶ生活動線として幅7mの歩行者・自転車専用道路「グリーンネットワーク」を整備する予定です。歩道はベビーカーのために十分な2.5mの幅がとられ、歩行者と自転車も分離。通学する子供たちや自転車に乗ったママにも安全・安心な道路として、CO₂を排出する自動車利用の減少にも貢献しています。植栽帯には大小の植物や街路樹を植え、道路自体が緑の帯を形成。「グリーンネットワーク」は「地球にやさしい」「子供にやさしい」街づくりが形となったものといえるでしょう。

低炭素・緑豊かで、子供安全・子育て安心な街づくり